

かしいかえんの跡地と香住丘の未来を考えるワークショップ

1. ワークショップ実施概要

- **会場:** 香住丘公民館 講堂
- **参加者:** 46人／1回目、57人／2回目、51人／3回目、計154人
(中学生～80歳代まで、多世代の皆さんに参加いただきました)
- **進行役:** 山口 覚 氏(ダイアローグファシリテーター)
- **講師:** 吉富実氏、斎藤昌平氏、たいら由以子氏

【第1回】土地の歴史を知り、思い出を語る(過去)

- **日時:** 2026年1月25日(日)16:00～19:00
- **内容:** 西鉄／かしいかえんの歴史や「かしいかえん跡地利用懇談会」の経過説明を受け、参加者が持ち寄った思い出の写真を元に、地域の歩みを再確認しました。

【第2回】環境と共生 ～歩いて暮らせるまちづくり～(現在)

- **日時:** 2026年2月15日(日)14:00～17:00
- **内容:** 開発トレンドや「コミュニティガーデン」の実践例を学び、資源循環や持続可能なコミュニティのあり方について議論を深めました。

【第3回】かしいかえん跡地の現在と未来

- **日時:** 2026年3月15日(日)14:00～17:00
- **内容:** これまでの対話を踏まえた、具体的な未来像についての対話型ワークショップ。

2. 参加者の構成と反応

中学生・高校生から80歳代の高齢層まで、幅広い世代が参加しました。

- **多世代交流の意義:** 「自分より目上の方は経験が豊富で学びになった(高校生)」、「若い人と会えたことが一段とうれしかった(70代)」といった声が多く、世代を超えた対話そのものが地域の紐帯を強める機会となりました。
- **地域への愛着:** 参加者の「かしいかえん愛」の強さが随所に表れ、地域の誇りとしての場所であることを再認識する場となりました。

3. ワークショップから見えた「未来への提言」(主な意見集計)

アンケート結果より、跡地利用に関する主要な要望と視点を整理しました。

① 教育・公共施設の充実

- **学校の新設**: 香住丘小学校／香椎第2中学校の過大規模化・教室不足解消のため、小中学校の建設を望む声が圧倒的に多く寄せられました。
- **複合的活用**: 人口減少を見据え、将来的に福祉施設やコミュニティ拠点として転用可能な「ユニット型建物」の検討も提案されています。

② 交流と賑わいの創出

- **多世代が集える場**: 「寄り道したくなる場所」「顔が見える関係になれる場所」として、カフェ、図書館、広場、スポーツ施設(サッカー場、グラウンド、パークゴルフ等)の設置が望まれています。
- **歴史の継承**: 「かしいかえん」という名称を何らかの形で残すことや、歴史を伝える掲示板・モニュメントの設置を求める声が強くなっています。

③ 環境・持続可能性(資源循環)

- **緑豊かな空間**: 「花園」の名の通り、自然や緑を豊かに残し、環境に配慮した開発が求められています。
- **コミュニティガーデン**: コンポスト(堆肥化)などを通じた資源循環型の菜園作りにより、住民が継続的に関わり、健康や食でつながる仕組みへの関心が高まりました。

④ 防災と安全

- **避難所の確保**: 一時避難所としての機能や、開発に伴う交通量の増加を見据えた道路整備、インフラ整備の重要性も指摘されました。

4. 総括と今後の展望

- ワークショップを通じて明らかになったのは、住民は単なる「跡地の完成」を待っているのではなく、「自分たちも街づくりに関わり続けたい」という強い意志です。
- 今後は、これらの多様な声を具体的な計画にどう反映させるか、行政や事業者(西鉄)とのさらなる対話と共有の場が必要です。